薬剤科の現在とこれから

後　藤　真由美

キーワード：病棟薬剤業務実施加算；ジェネリック・フォーミュラリー；患者の意志尊重
（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 71-72）

はじめに

現在、薬剤科は薬剤師７名、助手１名で業務を行っている。

平成10年４月より外来を院外処方箋とし、平成23年12月より県内で初めて病棟薬剤業務実施加算を算定し、業務は調剤から入院患者１人１人へのきめ細かいものに移行している。

現在の業務

現在は以下の業務を行っている。

①　調剤業務・注射調剤業務：

医師の処方箋に基づき、処方箋に記載された内容を確認し（監査）、必要に応じて、医師に問い合わせをし（疑義照会）、また、最終的に調剤された薬の内容が処方箋の内容と合っているか確認（最終監査）する。注射剤の場合は、配合変化や投与速度、投与ルートの助言なども行う。

②　薬剤管理指導：

患者さんのベッドサイドに伺い、使用している薬の効能・効果、服薬の意義を理解していただく為に、情報提供を行う。患者さんからの質問や相談などを受け、退院後も薬を正しく使用出来るよう、機材の使用法の確認や服薬のタイミングの調整、薬剤の絞り込みなども行う。

③　製剤業務：

市販されていない薬を院内でつくる業務で、現在、点眼薬・坐薬・吸入液など10種類程の薬を製造している。

④　がん化学療法業務：

癌治療に於いて、レジメン（抗癌剤治療の計画書）チェック、抗癌剤の調整、抗癌剤治療の説明や副作用の確認、医師への処方提案などを行う。

⑤　医薬品情報業務：

薬を安全かつ適正に使用する為に、投与方法、投与量、副作用、相互作用などの情報を収集する。また、院内で発生した副作用情報の収集、院内での報告のみならず、国への報告なども行っている。

⑥　病棟薬剤業務：

まず、入院した患者さんの入院前からの服薬状況や飲み合わせ、アレルギーなどを確認する。症状、年齢、体格や検査値から腎臓、肝臓の機能などを確認し、薬の適切な投与量、投与速度を判断する。また、起こりえる副作用とその対処法を患者さん又は家族に説明する。薬の使用後は、効果が出ているか、副作用が起きていないか確認する。その内容を医師に伝え、薬の処方設計を提案する。

⑦　チーム医療：

医療スタッフが互いの専門性を尊重し、患者さんにとって最善の治療を導き出そうという医療現場の取り組みでは、栄養管理、感染対策、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡対策などあらゆる場面に薬剤師は参加している。

⑧　出前講座：

「お薬の飲み方」を中心に、要望に応じて市民のもとへ直接伺っている（**図１**）。

雲南市立病院医療技術部薬剤科
著者連絡先：後藤真由美　雲南市立病院医療技術部薬剤科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: unkusuri@hotaru.yoitoko.jp

これから

これからの業務は、患者さんの入院時のみならず、より地域に根ざした包括的なものになると思われる。医療の高度化、薬の高額化により、「ジェネリック・フォーミュラリー」、つまり医療機関において医学的妥当性や経済性等を踏まえて作成された医薬品の使用指針の構築。これは雲南地域では当院が策定しなくてはならないものであり、薬剤師が重要な役割を果たすと考えられる。

また、「アドバンスケアプランニング（ACP）」、医療版のエンディングノートのことであるが、治療・療養について、患者・家族と医療従事者があらかじめ話した結果を記述し、ケアに関わる人々の間で共有する、という住民１人１人の終末期医療の指針である。これらをあらゆる年代が利用する地域の薬局と協力して、患者さんの意志を尊重した医療を提供出来る様努力して行きたい。

図１　薬剤科ふるさと教育（小学校）：調剤の体験実習

Present status and future perspective of the department of pharmacy in Unnan City Hospital.

Mayumi Goto

Department of pharmacy, Unnan City Hospital
Correspondence: Mayumi Goto, Department of pharmacy, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: unkusuri@hotaru.yoitoko.jp